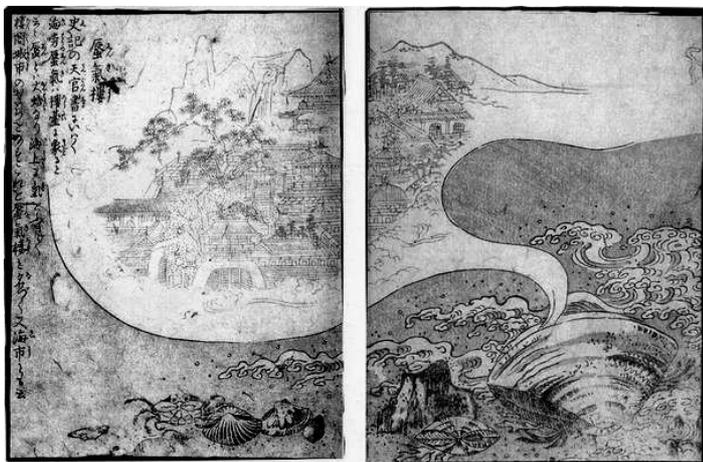


蜃気楼図の歴史と江戸時代画壇の人脈

石須 秀知（魚津埋没林博物館）

蜃気楼図とは

- ・大ハマグリが気を吐き、その中に楼閣を現出させる様子を描いた図。
- ・類似のものとして、ハマグリが観音菩薩を吹き出す「蛤蜊観音図」や、亀や龍が楼閣を吹き出す「龍宮図」などもある。また、観音や龍宮の乙姫から着想を得たのか、美人画が描かれる場合もある。
- ・書物の挿絵などには、ハマグリが描かれず、吹き出しと楼閣だけの場合もある。
- ・起源は中国だが、中国での成立時期や日本への渡来時期は不明。



井上(1990)は、研究報告「蜃気楼図考」で、松前藩家老で画人の蠣崎波響(1764～1826)作「夢蛤美人図」との関連から、蜃気楼図についてその起源や作画例、類例、時代背景など多角的に考察を行った。その後、インターネットの普及などによって蜃気楼図に関する情報や知見も格段に増えた。

蜃気楼図(類似図を含む)の例として

- ①美術的な絵画作品
- ②蜃気楼を記述した書物の挿絵
- ③絵手本、図案集
- ④工芸品(陶磁器、根付、鐺、布地など)などがある。

①～③の紙媒体に描かれたおもな蜃気楼図の年代と作者、作品を下に抽出した。

- 1728 以前 狩野周信「蛤蜊観音図」
1743 菊岡沾涼「諸国里人談」島遊び図
1768 以前 白隠慧鶴「蛤蜊観音図」
1776 以前 池大雅 「龍宮図」
1780 鳥山石燕「今昔百鬼拾遺」
1795 以前 円山応挙「蜃気楼図」
1795 吉村蘭州「東遊記」挿絵
1811 以前 釧雲泉 「海市図」
1826 以前 蠣崎波響「夢蛤美人図」
1827 葛飾北斎「万職図考」蛤吉原図
1828 溪斎英泉「画本錦之囊」
1829 以前 鳥文斎栄之「蛤美人図」
1858 以前 歌川広重「蜃気楼図」
1864 以前 三代歌川豊国「四日市」(以後歌川派による四日市蜃気楼多数)
1864 田崎草雲「西蝦夷日誌」挿絵
(○○以前とあるのは、製作年が不明で、作者の没年以前の意味)

